

【学校教育目標】

チーム城西 とともに光りかがやく

秋田県最初のコミュニティ・スクールを舞台に

2024「Be Happy!大作戦」～みんなで幸せになろう～

【未来大館市民こども像～未来を紡ぎ上げる力】

- 1 ふるさと城西を愛し、地域のためにできることを考え、実践する子ども (FC)
- 2 健康を意識し、体力づくりをする子ども (体)
- 3 自他のよさが分かり、思いやりを態度に表す子ども (徳)
- 4 自分の考えを表現し、共感・協働しながらすすんで学び合う子ども (知)



	重 点	実 践 課 題
人間的基礎力・大館市民実践力の育成	A 特色ある学校運営 ～コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 組織の機能化と学校教育目標の推進 <input type="checkbox"/> 特色ある教育課程の編成 (キャリア発達の支援) <input type="checkbox"/> 適正な事務処理 <hr/> <input type="checkbox"/> 保護者・地域との連携強化と情報の受発信
	B 学ぶ力の育成	<input type="checkbox"/> 学習習慣の確立と基礎・基本の定着 <input type="checkbox"/> 授業力の向上と校内研修の充実
	C やさしい心と 安全・安心づくり	<input type="checkbox"/> 主体的な特別活動・児童会活動 <input type="checkbox"/> 諸問題への迅速かつ適切な対応
	D 健康と体力の向上	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣・食習慣の定着 <input type="checkbox"/> 自立に向けた生活習慣の確立 <hr/> <input type="checkbox"/> 体力づくり
	E ふるさとキャリア教育	<input type="checkbox"/> SC活動 <input type="checkbox"/> 弥栄 Be Happy!プロジェクト



本気ッズタイムの学び合い



大館桂桜高校との交流授業



5年総合 城西っ子米販売

評価

重点A 特色ある学校運営～コミュニティ・スクール

1 組織・運営				
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
地域と連携しながら、特色ある学校づくりを計画的・組織的に推進している。	前期	良好	良好	校長のリーダーシップの下、児童と先生方が学校教育目標に向かって一丸となっている。キーワードの「Be Happy!」が、わずか数ヶ月でよく浸透してたいへん素晴らしい。
	年度	良好	良好	校長室を Be Happy 推進室に変えた取組が画期的であった。職員ヒアリングから職員の協力体制がよいことも伝わった。次年度も工夫した取組を期待したい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】校長が示す学校経営ビジョンが、全職員と児童によく浸透している。全職員が学校教育目標の具現化を目指し、学年経営や各つくり部で「BeHappy!大作戦」を軸とした取組を展開した。また、2学期から校長室を「BeHappy!推進室」としたことに児童がよく反応し、校長室を訪れた児童が「みんなが幸せになるためのアイデア」を持ち寄った。職員、児童、そして保護者が同じベクトルを向いて地域とともにある学校づくりに取り組んだ一年であったと捉えている。</p> <p>教育課程の編成においては、児童の意欲や自主性を引き出しつつ、教師が児童一人一人に向き合い、学習・生活両面の指導を充実させることを目的に、週の時刻表や時間割の見直しを行ってきた。放課後を活用して習熟度に応じた補習を行ったり、休み時間に会話を楽しんだりする様子から、教師と児童がともに過ごす時間にゆとりが生まれ、学校生活の豊かさが増したと考える。次年度も全職員が学校経営ビジョンを共有し、学校教育目標を柱とした取組を展開していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 地域に信頼される地域の核となる学校	(1) 組織の機能化と学校教育目標の推進	・ 学校教育目標を実現するための指導部の組織編成と、計画的・組織的な取組 ・ 学校教育目標の浸透と組織的な実践	4	4
	(2) 特色ある教育課程の編成（キャリア発達の支援）	・ 週時数の改善と時間割の編成 ・ 生活科及び総合的な学習の時間を中心とした大館ふるさとキャリア教育の推進とSC活動の推進	4	4
	(3) 適正な校内事務処理	・ 円滑な学校運営に係る校内事務処理の適正化	4	4

[1-(1)に関するデータ]

◎取組の実際

- 今年度の学校経営のテーマである「Be Happy!」を軸とした各学年部・各つくり部の取組
- ・ Be Happy!給食交流会（4月）
 - ・ ぴいはっぴい水あそび交流会（7月）
 - ・ 弥栄 Be Happy!集会（8月）
 - ・ Be Happy! SC活動（9月）
 - ・ ダックスムーン Be Happy!コンサート（10月）
 - ・ Be Happy!ハートアップ給食（11月）
 - ・ Be Happy!あいさつウォークラリー（11月）

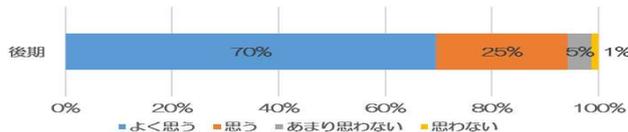


Be Happy!大作戦を柱に据えた学年目標（学級掲示）

<児童アンケート>

「Be Happy 大作戦をがんばっていますか。」

Be Happy!プロジェクトへの取組



- ・ Be Happy 推進室に寄せられたアイデアで実施した Be Happy!ハートアップ給食（異学年交流）



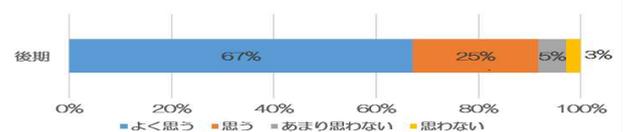
BeHappy 推進室を訪れる1年生 BeHappy ハートアップ給食

[1-(2)に関するデータ]

<児童アンケート>

「城西小学校は好きですか。」

城西好き



◎取組の実際 「ゆとりと Happy を推進する教育課程」

(1) 週時程の見直し

- ・ 通常日課より下校が30分早いB日課（火・木曜日）の設定
- ・ B日課の日に会議を実施
- ・ 委員会、クラブのない水曜日は全校5時間授業

(2) 時間割の編成

- ・ 全学年で余剰時数の見直し、調整
- ・ インクルーシブ教育に配慮した交流学習
- ・ 3～6年生に理科専科と算数TTの授業設定

2 保護者・地域との連携				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
取組を分かりやすく保護者や地域に伝え、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	極めて良好	目指す学校像が明確で、取組に対する熱意が感じられる。学校報等の発行にも注力されている。ブログの一般公開用の更新を充実させて、情報発信のさらなる有効活用をお願いしたい。 保護者への聴き取りの際の「情報発信がなされ安心して」という声から、情報発信の成果が伺える。地域とともにある学校づくりが、より一層充実したものになることを期待している。
	年度	良好	極めて良好	
自己評価の概要と学校の改善策	【年度（→次年度）】学校報「SUPER城西YES!2024」を毎週発行し、子どもたちの学びの姿や本校の特色ある教育活動の様子を家庭や地域に伝えている。また、学校のホームページを随時更新したり、地域報を幅広く発信したりしていることもあり保護者アンケートで高い評価を受けている。ボランティアの方々やPTA一人一役による協力体制も充実している。稲刈り・脱穀活動、家庭科の実習やスキー教室などで活動を支援し、児童の体験的な学びを支えている。城西ふれあいフェスティバルの午後の部（縁日、軽喫茶等）は、コロナ禍前以上の賑わいがあり、児童保護者がHappyになるひとときとなった。学校の教育活動に協力している方々が一堂に会して親睦を深める「ボランティア交流会」に、66名もの方々が参加。「学校の応援団」である地域の方々と交流する有意義な機会となった。次年度も地域とともにある学校づくり推進し、「みんなで幸せになろう」を合言葉に、地域の核となる学校づくりに努めていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
2 地域との協働と情報の受発信	(4) 保護者・地域との連携強化と情報の受発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校報「SUPER城西YES!」配布とHPへの掲載地域報「コムニタ」の発行 学校ブログで子どもたちの活動の様子を発信 オレンジ隊（ガードボランティア隊）との情報交換 PTA活動（一人一役を含む）への参加 地域委員会との連携 地域学校協働活動による支援の有効活用 	4	4

[2-(4)に関するデータ]

◎取組の実際

(1) お便り等による情報提供について

- ブログ・HPによる情報発信 随時配信
- 学校報「SUPER城西YES」 週1回程度発行
- 地域報「コムニタ」 月1回発行
- 学年便り・保健だより・城西っ子のくらし
- 連絡メールの活用（安全に関する連絡・情報提供等）

〈保護者アンケート〉「学校は情報を発信していますか。」
保護者や地域への情報発信

(2) オレンジ隊との情報交換・下校の見守り

- 学校側と情報交換会（毎週木曜日）
- 1年生の安全な下校の見守り（情報交換後）

オレンジ隊との情報交換会(上)
学校報「城西YES!」(左)

(3) PTA活動

- PTA学年懇談会
- PTA運営委員会
- 各専門部、学年部の活動、親子ふれあい学習
- PTA一人一役の協力
- 城西ふれあいフェスティバル協力
- 図書整備
- ベルマーク整理
- 登校指導

親子ふれあい学習 親子ふれあい学習
ふれあいフェスティバル縁日 親子ふれあい学習

(4) 地域学校支援活動による支援の有効活用

家庭科実習補助 家庭科実習補助
本の読み聞かせ 本の読み聞かせ

(5) 地域委員会と連携した事業の展開

スペシャル休み時間 スペシャル休み時間
ふれあいフェスティバル外販売 親子ふれあい学習

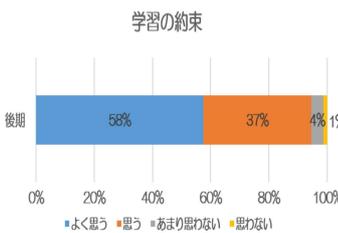
重点B 学ぶ力の向上

3 自ら考え学び合う力と基礎学力の育成

児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
意欲的に授業に臨み、学習習慣を確立し、確かな学力を身に付けさせている。	前期	概ね良好	概ね良好	基本的な学習の約束や学び合いの仕方が定着してる。研究教科の国語を中心に授業改善を重ね、さらに先生方の授業力アップを図って学力向上を進めてほしい。
	年度	概ね良好	概ね良好	授業参観から、教室環境がよく整っていることが伺えた。学びに向かう姿勢、発表の声の大きさを意識して学習に取り組んでほしい。学力向上に向けた工夫した取組を期待する。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】学習の約束について、強調週間だけでなく年間を通した指導をしている。特に強化したい部分については、その都度担任に伝え、それぞれの学級で指導をし、成果を上げた。家庭学習ノート展や、ノートを見るdayでは、友達のノートを見ることや、校長、学年部からコメントをもらうことが児童にとってよい刺激となったようだ。今年度は、読書の推進と異学年交流の機会を増やす目的で、新たに高学年からの読み聞かせを行い、本に親しむ機会を作ることができた。これからも本校児童の実態を捉え、成果と課題を吟味しながら取組について考えていきたい。</p> <p>一人一授業として、全員が研究授業を行った。国語科を研究教科とし、初めての教材研究会を行った。児童が主体的に取り組める授業づくりをしたり、授業後は、成果と課題を話し合い、自学級の授業に生かしたりするなど、児童の実態や教員のニーズに合わせて研修をすることができた。また、パワーアップ期間として学年の復習も全校体制で行った。今後は、県学力学習状況調査の結果も分析し、結果を生かしていくとともに、基礎・基本の充実のためにもっと研鑽を積んでいきたい。</p>			

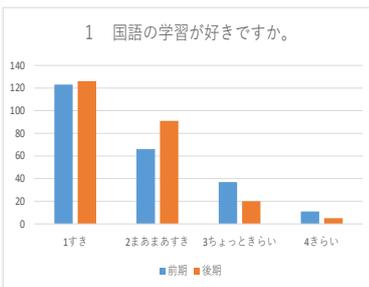
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 目標をもち、ねばり強く学習に取り組む子ども	(5) 学習習慣の確立と基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学習スタンダードの徹底(学び方集会、「学習の約束」の掲示、強調週間) 家庭学習の習慣化(ノートを見るday、ノート展示、マイスターの表彰、強調週間、家庭読書) 基礎基本の定着(城西検定、週末プリント、学習会、音読) 学習環境の整備(学び・道徳の各コーナー・学年花壇) 視聴覚・メディア(情報集会)、学校図書館の利用、読書の推進 	3	3
4 学力向上を図る研究の推進	(6) 授業力の向上と校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりのための研究会(「国語科を中心として読み方を身に付け、自分の考えをもち、楽しく学び合う子どもを育てるための授業づくり」) 一人一研究授業の実施 学団研究の充実 授業研究会の充実 	3	3

[3-(5)に関するデータ]
 <児童アンケート>「学習の約束を守っていますか。」



ハッピープレゼントタイム(6年生から下学年へ読み聞かせ)

[4-(6)に関するデータ]
 <児童アンケート>「国語の学習が好きですか。」



2年国語「お手紙」(自由に考えを交流する)

◎取組の実際

- 学習習慣の確立と基礎・基本の定着
 - 学習の約束強調週間(1月)
 - ノートを見るdayパートI(校長先生が見る)(10月4年、11月2年、12月6年、2月1年)
 - ノートを見るdayパートII(学年の先生が見る)(2月)
 - 家庭学習ノート展(11月、2月)
 - ノートマイスターの表彰(12月、3月)
 - 城西検定(朝学習〈国語・算数〉10月、11月、2月)
 - 音読・短作文・タブレットの計算練習(朝学習)
 - 週末プリント学習(4月から継続)
 - ハッピープレゼントタイム(読み聞かせ)
 - 職員から:10月 6年生から:11月 5年生から:2月
 - 家庭読書の日(10月、11月、1月)
 - 学習環境の整備(花壇整備5月~10月)
- 授業力の向上
 - 授業づくりのための研究会の充実(教材研究会、学団での指導案検討会、全体での検討会、事後研究)
 - 基礎・基本の力の育成
 - 本気ZZタイムの設定
 - 一人一研究授業
- 校内研修の充実
 - ワークショップ型授業研究会の実施
 - 学団研究計画の実施及び振り返り
 - 全校研修会(国語教材研究会・道徳・特別支援、学習状況調査分析)の実施
 - 校外研修への積極的な参加と情報の共有

重点C やさしい心と安全・安心づくり

4 やさしさと思いやりの心の醸成

学校の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
互いの良さに気づき、自分を大切にしながら思いやる心を持ち続けようとしている。	前期	概ね良好	あいさつ運動やなの花カードの活用で、互いのよさを見つけて発信できる子どもが増えると考えられる。コロナ禍を越えて、異学年の交流が活発になることが期待される。 子どもたちの自発的なアイデアで実現した「ハートアップ給食」は素晴らしい取組である。児童の発想生かした活動が、より充実したものになるよう努めてほしい。
	年度	良好	

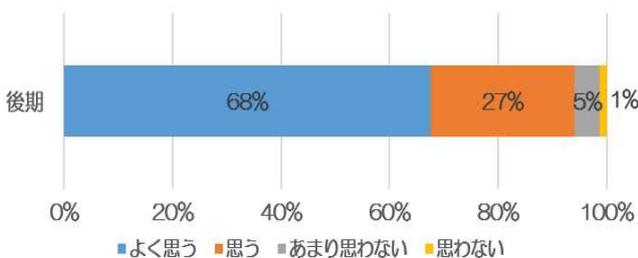
自己評価の概要と学校の改善策 【年度（→次年度）】
あいさつ強調週間を設定し、あいさつカードを使用しながら自発的なあいさつを促した。また運営委員会の発案・計画により、「Happy!あいさつウォークラリー」を実施した。縦割り班であいさつをしながら校内を回り、教室にあるクイズを解いて楽しみながら活動した。出会った人とあいさつをするというこの活動は、異学年交流にもなった。あいさつはあきらめない継続した指導が必要なので、これからも指導と賞賛を繰り返していく。次年度も、気持ちのよいあいさつが実感できるような取組を検討する。様々な活動の経験の積み重ねにより新たな発想も生まれるので、次年度も児童の発想を生かした特別活動を行う。
異学年交流の試みが多様であった。（「Be Happy!ハートアップ給食」兄弟学年での給食交流など）これらの活動により、リーダーシップ・フォロワーシップの育成につながった。次年度も児童の意見を取り入れながら、異学年交流の場を増やしていきたい。
なの花カードは、友達のよいところ、がんばっているところに目を向けられるよう、放送や掲示により紹介を続けている。友達の思いやりやがんばりの姿に気付いたり広めたりすることができた。3学期は「成長した自分」に目を向けたカードにする。次年度も互いを認め合う活動として継続したい。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 思いやりとやさしさの心をもつ子ども	(7) 主体的な特別活動・児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体となつてのあいさつ運動 児童の発意・発想を生かした児童会、委員会活動 自他のよさを認め合う「なの花カード」 縦割り班などの取組を中心とした異学年交流 	3	4

[5-(7)に関するデータ]

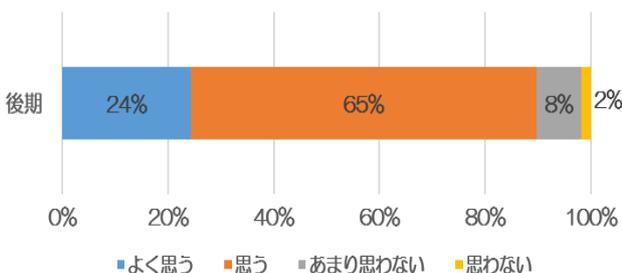
〈児童アンケート〉「あいさつをよくしていますか。」

あいさつ



〈保護者アンケート〉「お子さんや子どもたちは、元気にあいさつをし、友達と仲よく生活していますか。」

仲良く生活



◎取組の実際

- あいさつの推進
 - 毎月のあいさつ運動（学年）
 - あいさつ強調週間の実施
あいさつカード、あいさつの話し合い、あいさつ Be Happy!カードで賞賛
 - あいさつウォークラリーの実施
 - 異学年交流の場
 - 児童による発案、企画
- ハートアップタイム
円滑な人間関係作り、自他を思いやる心をねらいとした交流を実施
 - 兄弟学年による給食交流
 - 縦割り班清掃
- なの花カード
友達のよさを紹介するカードを廊下に掲示し、校内放送で紹介（全員）
- その他
 - 児童の意見を生かす城西サミット会議
 - 児童の発想を生かす児童会、委員会活動

Be Happy!ハートアップ給食
(兄弟学年での給食交流)

Happy!あいさつウォークラリー

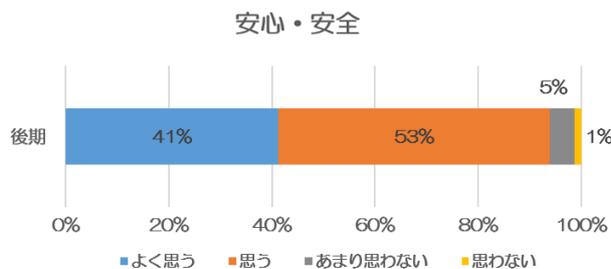


5 安全・安心				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
児童の校外内における安全確保につとめ、諸問題に組織的に対応している。	前期	概ね良好	良好	不審者情報や熊の出没情報など、一斉メールでレスポンスのよい発信ができています。各方面との情報交換を継続的にを行い、児童の安全を守るための取組がよくなされている。
	年度	良好	良好	連絡メールによるタイムリーな情報提供により、児童の安全・安心が確保されている。保護者、地域との協働により、校外内の安全確保がさらに充実することを期待する。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】前期から継続で、安全の意識化を図る取組として、校内では「城西っ子の一日」を掲示し、各学級でいつでも確認できるようにしたり、「城西っ子の一日チェック表」で自らの生活を振り返ったりできるようにした。児童が自分自身を見つめ、確認することで、安全意識を高めるようにしている。また、全校放送を活用し、全校で統一したルールの確認をすることで、安全に対してより意識できるようにした。校外では、おたより「城西っ子の暮らし」や学期の終業式後に、長期休業の暮らしについて安全指導を行い、未然防止に努めている。前期同様、毎週職員打合せ後の「児童理解」や継続的にケース会議（いじめ・不登校対策）を行い、児童についての共通理解や支援の見通し、外部機関と繋ぐなど、様々な手立てを考え、組織として不登校・いじめへの対応や事故・トラブルの未然防止及び迅速な対応に努め、学校全体がチームとして生徒指導に取り組むことが出来た。</p> <p>次年度も、未然防止を意識した積極的な生徒指導を継続していきたい。そのために職員間や保護者との情報共有を積極的に図り、連携していく。また、児童自身が危険場面を想像し、児童自ら回避できるような指導を工夫し、児童の校外内における安全確保に努め、諸問題に組織的に対応していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 組織的な生徒指導	(7) 諸問題への迅速で適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に必要な安全教育の実施（事故の未然防止、町内連絡会、集団下校） ・安全確保のための地域力の活用（オレンジ隊等） ・緊急連絡に伴うメール連絡網の整備 ・情報の共有化と、学校体制での迅速な対応 ・組織的な不登校、いじめ対策 ・郊外生活を把握する地域巡視 	3	4

[6 - (7) に関するデータ]

（保護者アンケート）「安心して学校生活を送ることができている」



☆十分達成できていると概ね達成できている合わせた肯定率は94%と高い評価である。

◎取組の実際

- (1) 朝の登校指導（月初め・学期の初めを中心に）
学校・保護者・地域：民生児童委員
- (2) ガードボランティア・オレンジ隊の活動
 - ①毎週木曜日1年生と一緒に下校
 - ②町内連絡会への参加と一緒に集団下校
- (3) いじめ未然防止の指導（1人1人に目を向けた学級経営）
 - ①いじめアンケート調査の実施（学期に1回）
 - ②教育相談の実施（全児童対象）
- (4) 職員の共通理解を図る生徒指導通信、主に校外の安全・安心の意識化を図る児童と家庭向けの「城西っ子の暮らし」の発行

- (5) 校外内の安全・安心の意識化を図る「城西っ子の一日チェック表」の活用
- (6) 毎週打合せ後の「児童理解」
 - ・教職員間で情報共有を図り、組織としての対応
- (7) 継続的なケース会議（いじめ・不登校対策）
 - ・児童についての共通理解や支援の仕方の見通し、外部機関と繋ぐなど、様々な手立てを考え、組織としての対応
- (8) 終業式後や昼の放送による安全指導
 - ・長期休業前、適時に実施
- (9) 緊急メールの活用



冬休みの暮らしについての安全指導



安全・安心まちづくり
県知事表彰
城西小オレンジ隊が受賞

重点D 健康と体力の向上

6 健康的な生活習慣づくり				
児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント	
健康への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	概ね良好	概ね良好	メディアコントロールに力を入れて取り組んでおり、児童や家庭への働きかけも工夫して行われている。家庭との連携を充実させた取組により、生活習慣の向上を図ってほしい。
	年度	良好	良好	心の健康教育を軸に、養護教諭が中心となって取り組む施策・支援が大きな成果を上げている。次年度も健康的な生活習慣づくりに力を入れて取り組んでほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【年度（→次年度）】 今年度は主に児童の心の健康指導とメディアコントロールに力を入れて取り組んだ。心の健康指導では、佐々木臨床心理士を招いたPTA講演会を企画したり、一中学区内で心の健康に特化したほけんだより「こころチャージ」を発行し児童・保護者への情報提供を行ったりした。また、今年度から新たに全学級児童を対象に養護教諭が「心の授業」を実施した。各学級担任へのヒアリングをもとに、児童のニーズに合った授業を行ったことで、児童から「学校へ行きたくない、気分のモヤモヤが自分だけではないと知って安心した」などの振り返りが見られた。 メディア指導に関しては、前年度までの生活習慣チェックに代わってメディアコントロール週間を年3回実施した。おたより等での保護者への情報提供の他、委員会活動の中で子ども園の園児向けにビデオメッセージを作成するなどの活動も行い、幼少期からの啓発も図った。今後も幼保小が連携し、早期からのメディアコントロールの定着を図っていききたい。 清掃指導では、「班長会議」で定期的に注意事項を確認し、円滑に掃除を進められるようにした。また、班長の振り返りから掃除をがんばっている児童を学級で称揚し、家庭にも知らせることで意欲の向上を図った。給食指導では、給食センターの栄養教諭による食育指導を行うなどして児童の食に関する意識を高めてきた。 今後は、生活習慣に関する実態調査等のアンケートの結果を分析し本校児童の課題を見つけ学級での指導に生かすとともに、保健だよりで各家庭へ情報発信し、啓発を一層図っていく予定である。また、学校保健委員会で話し合われた健康課題について、課題の改善に向けたよりよい生活習慣の施策を探っていききたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 健康で明るい生活ができる子	(8) 基本的な生活習慣・食習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康指導と保護者への情報発信（ほけんだより・心の授業など） 学校保健委員会との連携 	3	4
	(9) 自立に向けた生活指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> 給食指導（準備や片付け、マナーの徹底、栄養指導を通じた食育の推進） 清掃指導（縦割り班活動の充実、掃除方法の徹底） メディアコントロール週間の実施と情報発信 	3	4

◎取組の実際

- 学校保健委員会の開催
 - 学校医や保護者との連携
- 委員会を中心とした活動
 - メディアコントロール週間に向けた呼びかけ・情報提供（幼・小）
園児向け啓発ビデオの作成
 - 好きな給食アンケートの実施
 - 換気チェック・手洗い指導
- 清掃指導
 - 班長会議での清掃指導
 - 班長による班員のよい掃除の紹介と奨励（「サンキューピカピカカード」の記入と配付）
- 心の健康に関する指導・情報提供
 - 心の授業の実施
 - （全学級を対象に養護教諭による心の健康についての指導）
 - こころチャージ（一中学区を対象に心の健康に特化したほけんだより）の発行
- 歯磨き指導の実施
 - 養護教諭による正しい歯磨きの仕方に関する指導
- 食育指導の実施
 - 給食センターの栄養教諭による「食」に関する指導

▽養護教諭による「心の授業」の様子



▽歯磨き指導の様子



[7-(8)に関するデータ] 〈児童のアンケート〉

「給食はマナーを守って食べていますか。」

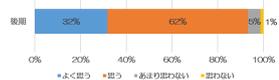
給食のマナー



〈保護者アンケート〉

「お子さんや子どもたちに、食習慣が身に付いている。」

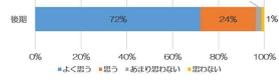
食習慣



[7-(9)に関するデータ] 〈児童のアンケート〉

「縦割り掃除などで班のみんなと力を合わせてがんばっていますか。」

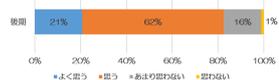
縦割り清掃



〈保護者アンケート〉

「お子さんや子どもたちに、生活習慣が身に付いている。」

生活習慣



7 体力の向上				
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
運動に関心を持ち、自らの体力の向上に取り組んでいる。	前期	概ね良好	概ね良好	運動量に個人差があることが児童ヒアリングから感じられた。遊具が少ないことと体力、体幹の弱さは関係があると思われる。体力テストの結果を基にした弱点の補強を期待したい。
	年度	概ね良好	概ね良好	なわとび運動、マラソントイム実施など、楽しく運動できる工夫が伺える。児童の実態に沿った施策や支援を展開して、体力向上に努めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（一学年度）】</p> <p>業間運動として春から秋まで太陽の時間にマラソントイムを設けている。グラウンドの周回数に応じてカードに色を塗ることで、体力づくりに意欲的に取り組ませることができた。また3学期にはなわとび運動を行い、跳び方や回数によって級を設けるなわとびカードを活用することで、冬期間の体力づくりの機会の一つとしている。</p> <p>児童委員会の取組として、マラソントイムやなわとびタイムの運営、城西オリンピックの企画運営を行った。今年度は異学年交流も兼ねてペア学年での城西オリンピックを計画していたが、感染症の拡大防止のために今年度は中止した。</p> <p>その他、普段の体育の授業でも児童の十分な運動量を確保し、運動好きな児童を増やすために、体育主任を主とした指導力向上研修を実施したり、体育主任と連携した効果的な授業づくりを行うなどの施策を行ってきた。</p> <p>次年度も体力テストの分析結果を活用した体づくり運動を行いつつ、週に3時間ある体育の授業時間について、より児童に体力を付けさせるように充実させていく。また、児童委員会の活用やがんばった児童を称揚する取組を工夫して、進んで体力づくりに取り組む児童を育成していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
8 進んで運動できる子ども	(10) 体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 運動好きになる授業づくり 新体力テストを生かした体づくり運動の実施 業間運動（マラソントイム・なわとびタイム） 	3	3

◎取組の実際

1 日々の授業の取組

- ・運動量の確保、運動好きにする授業展開
- ・新体力テストの結果を基にした体づくり運動の実施
- ・指導力向上研修の実施

2 業間運動

(1) マラソントイム

- ・太陽の時間に実施
- ・体育委員会が主体となって実施
- ・マラソンカードの活用

(2) なわとびタイム

- ・太陽の時間に体育委員会が主体となり実施



2年「ボールゲーム」



3年スキー教室 大鰐スキー場



マラソン運動に取り組む児童の様子



指導力向上研修会の様子

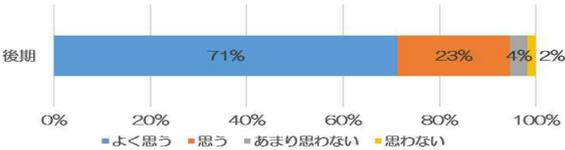
体育主任から跳び箱や鉄棒、マット運動の指導法について学んだ。



マラソン運動を運営する体育委員の様子

[8-（10）に関するデータ]
＜児童アンケート＞
「体力づくりをがんばっていますか。」

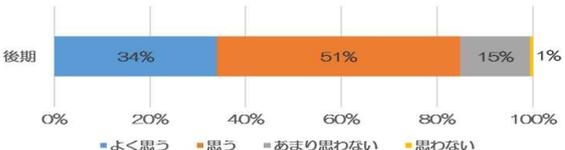
体力づくり



評価	割合
よく思う	71%
思う	23%
あまり思わない	4%
思わない	2%

＜保護者アンケート＞
「子どもたちは自分から体力を高めている。」

体力向上



評価	割合
よく思う	34%
思う	51%
あまり思わない	15%
思わない	1%

重点E ふるさとキャリア教育

8 ふるさとキャリア教育

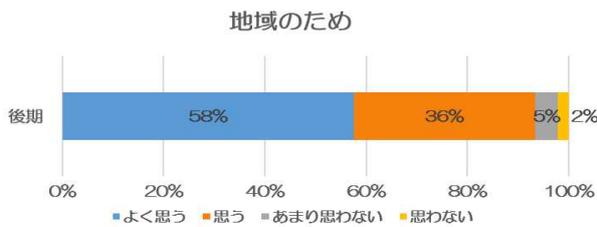
児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
地域のためにできることを考え、取り組んでいる。	前期	良好	SC活動やふれあい緑の活動は、子どもたちが学校や地域のために取り組むすばらしい活動である。後期も学校と地域が連携し、充実した活動が展開されることを期待したい。
	年度	良好	コミュニティ・スクールの強みを生かした特色ある取組がなされている。地域との連携・協力により、次年度も充実した活動が行われることを期待したい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】前後期のアンケートを比較すると、ふるさとのために自分たちができることに取り組もうとする児童の意識は年間を通して高いことが覗える。後期も地域の協力をいただき、夢授業、生活科や総合的な学習の時間を通して、児童の将来や職業へのビジョンを広げることができた。</p> <p>子どもハローワークへの参加も学年が上がるにつれて増える傾向にあり、地域の様々な職業に触れたいという児童の意欲と、多くの体験を通して将来への視野を広げてほしいという保護者の期待が感じられる。チラシを校内に掲示することに加え、対象学年の児童全員に募集用紙を配付してきた成果と思われる。</p> <p>現在、生活科（1・2年生）と総合的な学習の時間（3～5年生）の伝達プロジェクトが進行中である。6年生は、災害の多くなる季節を前に、天災や熊の害等の恐ろしさと、自分たちにできる予防・避難の仕方を全校に向けて紹介し、家族や地域の命と幸せを守る行動を呼びかけた。どの学年も発達段階に応じ、各教科で学んだ内容や培った力を駆使して、下の学年に自分たちの経験と成長、地域との関わりの大切さを伝えようとしている。</p> <p>次年度も、児童が地域への思いをより一層大事にしなが、地域のことを詳しく調べたり、地域のためにできることを考え、発信したりする機会や場の設定にさらに努めたい。また、地域や保護者に理解していただくとともに、さらに協力を仰ぐための方策も検討していきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 できることを考え実践できる子ども	(12) SC活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい緑の活動 ・町内SC活動 	4	4
	(13) 弥栄Be Happy!プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・弥栄Be Happy!集会への取組 ・地域学習 ・夢授業 ・子どもハローワークの奨励 ・キャリアノート・パスポートの活用・推進 	4	4

【9に関するデータ】

〈児童アンケート〉

「地域のためにできることを考えて行動していますか」



◎取組の実際

(1) SC活動の推進と夢を育む取組

① 5・6年生と地域の方（オレンジ隊）が話し合った計画を基にクリーンアップや神社・会館の清掃を実施

② 夢授業の実施

・Be Happy!ダックスムーンコンサート
児童の夢を育むために、様々な分野で活躍されている方々や地元高校生をお招きし、交流する「夢授業」を計画、実施

③ 子どもハローワーク

大館市内の企業や団体、公共機関の協力により、多様なお仕事を体験を紹介
全校へ案内を随時配付・取りまとめ
延べ108名の申し込み（4～1月）

(2) 弥栄Be Happy!プロジェクト

① 地域・社会と関わる学習

- 1年生…昔の遊び体験
- 2年生…まちの公共施設巡り
- 3年生…きなこもち作り・秋田杉キーホルダー作り
- 4年生…秋田県の先人に関する学習
- 5年生…城西っ子米販売・米作り感謝の会
- 6年生…卒業ソングプロジェクト

② 学習のまとめと伝達

- 1年生…学校紹介(体験入学で年長児へ)
- 2年生…町たんけんクイズ(1年生へ)
- 3年生…大館名物と体験活動の紹介(2年生へ)
- 4年生…ふるさとの先人に関する発表(3年生へ)
- 5年生…米作りの1年間に関する発表(4年生へ)
- 6年生…防災プロジェクトの発表(全校へ)



町内SC活動で神社の清掃



地域の名人から学ぶ米作り